

# 京都府女性総合センター

京都府京都市

## 全32回の充実したカリキュラムの講座で地域に根ざした男女共同参画推進のリーダーたちを育成

京都府が、平成元年に策定した「KYOのあけぼのプラン(男女平等と共同参加の21世紀をめざす京都府行動計画)」に基づき、その推進拠点として平成8年にオープンしたのが京都府女性総合センターです。男女共同参画推進の普及啓発イベント「KYOのあけぼのフェスティバル」や「KYOのあけぼの大学」の開催、相談事業など、「男女共同参画社会」の実現を目指すための情報発信、学習、交流事業に積極的に取り組んできました。女性団体やグループとも緊密な連携を図り、活動を支援する役割も大切にしています。センターが推進するさまざまな事業のなかで、開館時から重要な事業のひとつとして開催しているのが「女性問題アドバイザー養成講座」です。目的は地域に密着した男女共同参画推進に関わる活動のリーダーを育成すること。受講者は、月に2回、約10か月にわたって、女性を取り巻く問題に関する32のカリキュラムを受講し、修了時には関心のあるテーマについてグループでレポートを作成します。人気の高い講座で、毎年30余名の定員をはるかに上回る多数の応募があります。受講者は20代の学生から70代の主婦までと年齢・職種ともに幅広く、京都府が受講者のために用意した保育ルームに3人の子どもを預けながら、全カリキュラムに出席した熱心なお母さんもいます。

## 地域で活躍する講座の修了生たちがセンターで講師として実践的な知識を伝授

「女性問題アドバイザー養成講座」では、さまざまな分野に存在する女性問題について認識を深めてもらうために、大学教授や弁護士、ジャーナリスト、NPO法人の代表者など多岐にわたる分野から講師を招いて講義を開催しています。「女性問題アドバイザー養成講座」の修了生は、これまでの8年間で300名を超えており、把握しているだけでも40のグル

ープが結成され、会社やNPO法人を設立したり、地域でグループを結成するなど幅広く活躍しています。センターでは、そうした修了生たちの研究会やそれぞれの自主的な企画事業を実践するための場の提供を行ったり、ユニークな自主企画事業の後援などを行うことでグループ育成のための環境づくりに努めています。また、京都府全域に配布される広報紙「きょうと府民だより」にグループのイベント情報を掲載するなど、修了生の方々のさまざまな活動を広く情報発信することで、新しい仲間・新しい活動の芽を育てることに力を注いでいます。修了生のなかには女性総合センター事業の講師として活躍している方もおり、さらに活躍の場を広げていくためのチャレンジの場・ネットワークの拠点として女性総合センターは意欲のある女性を応援しています。金谷美紗子館長はいいいます。「センターで習得した知識をもって、地域で活躍していただき、その実践の場で得た知識を今度はセンターに持ち込んでいただくのです。現場を知っている方々のお話はわかりやすいし、即、実践に役立つ内容が多い。まさに「生きた」講義になるんです。それは受講者にとっても有益です。これからも、そうしたサイクルをどんどん続けていき、実践的な講座を重視して、即戦力になるような人材を育成していきたいと考えています」

## 「京都府男女共同参画推進条例」に基づきチャレンジする女性をさらに支援

女性総合センターは開館以来、「女性問題アドバイザー養成講座」を始めとした「KYOのあけぼの大学」事業の各種講座により、男女共同参画社会実現にむけた府民の意識の高揚を図り、地域や職場で、男女が互いに人権を尊重しつつ、責任も分かちあい生きることができるよう社会づくりに貢献する人材の養成に力を注ぎました。平成16年度は、こうした基盤の上で、「京都府男女共同参画推進条例」に基づき、さまざまな関係機関とのネットワークの下、チャレンジしたいと考える女性が、必要



京都府女性総合センターの金谷美紗子館長。「女性問題アドバイザー養成講座」で育った方々がステップアップしながら地域で活動し、センターに講師として戻ってきてくださった姿を見るのは本当に嬉しいものです」

な情報を効率的にワンストップで入手し、相談することができるような「チャレンジ支援ブース」を整備し、適性診断などによる各人にあったチャレンジの方向付けなどを行う「チャレンジアドバイザー」を設置するほか、キャリアアップや起業、NPO活動など女性のさまざまな活動に対するチャレンジを支援。これまでの「KYOのあけぼの大学」事業などを再構築しながら、女性のチャレンジ意欲が社会のなかで実を結んでいけるよう、女性総合センターの充実を図ります。



女性問題アドバイザー養成講座第7期生の研究発表会の様子

### ●施設概要

京都府民総合交流プラザ(京都テルサ)東館に、セミナー室、中会議室、視聴覚研修室、文化活動室、調理実習室、サロン、交流室、図書情報資料室、相談室、展示コーナー、調査研究室、ミーティングルーム、ワーキングルーム、印刷作業室、保育ルームなどを開設。

### ●事業例

条例制定を機に、基礎的・理論的な講座から、男女を対象にしたより幅広い層を対象とした、実践的な内容へと再編が図られた「KYOあけぼの大学」の各種講座の開催。地域講座や子育て支援講座として「子育てオヤジなやみぶっちゃけサロン」「親子料理教室」の開催。また、女性の就業や社会でのチャレンジを支援する、チャレンジ支援講座として「女性のキャリア支援講座」「女性と労働を考える講座」「パワーアップ講座」などを実施。女性の抱える悩みの相談窓口やDVサポートラインなども設置。

### ●住所&交通アクセス

京都府京都市南区新町通九条下ル 京都府民総合交流プラザ東館2階 JR京都駅(八条口)より徒歩15分、近鉄東寺駅・地下鉄九条駅より徒歩8分、市バス九条車庫より徒歩3分

<http://www.kyoto-womensc.jp/>

### ●問い合わせ

電話075-692-3433

[info@kyoto-womensc.jp](mailto:info@kyoto-womensc.jp)



## 女性が特技やキャリアを活かしつつ働ける場を増やしたい。 そんな思いがきっかけとなって誕生したNPO法人

NPO法人・働きたいおんたちのネットワーク

理事長 吉田秀子 さん (写真右) 副理事長 切明友子 さん 京都府宇治市

### 吉田さんがNPO法人を設立するまで

子育てを続けながらPTA・子供会・ボランティアなど、さまざまな地域活動に参加。徐々に「〇〇ちゃんのお母さんとしてだけでなく、自分自身としてなにかを始めたい」と考える。

平成11年、宇治市の女性政策のフェスティバルの市民スタッフに参加し、現パートナーの切明さんと知りあい、「資格やキャリアを活かして働きたい女性を支援したい」と二人で考えるようになる。

平成12年5月、二人が中心となり「働きたいおんたちのネットワーク」を設立。新聞への掲載がきっかけで、参加したいという仲間が急増。同年8月、NPO法人として認可。

社会参加支援事業・子育て応援事業・元気づくり事業の三つを柱に、さまざまな活動を展開。

### 子育てで職場を離れた後に 待ち受けているものは？

“NPO法人・働きたいおんたちのネットワーク”は、その名の通り、資格や技術・経験を活かして働きたい女性たちの自立と社会参画を支援するための活動を行っています。理事長を務める吉田秀子さんは、市民公募による宇治市の女性政策委員のスタッフとして活動を続けるなかで、NPOの立ち上げを思いついたといいます。

「公募市民スタッフとして女性政策のフェスティバルの企画をしていた時に、切明友子さん(現・ネットワーク副理事長)と意気投合したのが、そもそものきっかけでした。女性の場合、子育てで仕事を休んでいざ再就職しようとすると、前よりも条件の悪い仕事にしかつけないことが多いんです。で、ふと気づくと自分の



活動にやりがいを感じているからか、皆さん表情はいきいき。「じつはしんどいことも多いのですが、だからこそ楽しみなさやね(笑)」と吉田さん

キャリアとはまったく関係のない仕事についている。そういうお定まりのコースではなく、自分の特技やキャリアを活かして、自分らしく働ける場がもっとあればいいのにと、切明さんと二人で話しあっているうちに、“それなら自分たちで作ってしまおうか”という話になったんです」

### 女性講師支援事業を皮切りに、 子育て応援事業もスタート

行動的なお二人は、知りあった翌年の平成12年に早くもNPO法人を設立。まず活動の手始めとして女性講師支援事業をスタートさせることになりました。

「せっかく資格や経験を持っているのに、それを活かさきれていない女性が世の中には多いんです。そういう人を講師に起用して講座を開けば、地域の人々のために役立てるし、彼女たちの就業や自立支援にもつながるのでは、と考えたんです。ガーデニング、フラワーアレンジメント、アロマセラピーなど、専門的な知識を持っているのに趣味だけに終わらせておくのはもったいないですからね」

講座に参加する際には、子供を預ける一時保育の場も必要。そうした理由から、徐々に子育て応援事業(キッズサポート)にも手を広げるようになり、現在に至っているといいます。ちなみに平成15年度からは、宇治橋通り商店街の空き店舗を活用し、商店街と協働で親子広場を常設ではじめました。

「地域みんなが協力しあって子育てをしているのが私たちの理想。それなら商店街の中に“子育て基地”があってもいいのではないかと、思いましてね。空き店舗を提供してもらって、商店街振興組合と協働事業という形で、“親子広場つむぎ”を開設したんです。街の活性化につながればと商店街側も協力的で、今はネットワークの事務所としても使わせていただいています」

### 宇治市民19万人全部を 元気にするのが私たちの仕事

女性講師支援、商店街との協働による保育支援など、オリジナリティ溢れる活動が目立つ“働きたいおんたちのネットワーク”ですが、

「元気づくり事業」なる活動もこの団体ならではの。これは管理栄養士の資格を持つ切明さんが中心となって生まれた事業です。

「子育てや社会参加も重要ですが、なにを始めるとしても基本となるのはやはり元気。ダンベル体操の講座のほか、親子のふれあいを遊びのなかで体験してもらおうと“元気に遊ぼうひろば”という講座も開いています。宇治市民19万人、すべてに元気を届けたいというのが、私たちの合言葉なんです(笑)」(切明さん)

現在「働きたいおんたちのネットワーク」のスタッフは約50名。メンバーのなかにはキャリアコンサルタント、社会保険労務士、介護福祉士など有資格者も多く在籍しています。しかし、吉田さんと切明さんは「今の活動の成功は、メンバーの力だけではなく、外とのネットワークがあってこそ」といいます。

### 外とのネットワークが さらなるパワーを生み出す

「事務所に毎日さまざまな人たちが集まってきて、アイデアを語りあっているうちに新しい企画が生まれてくるんです。組織のなかで小さく固まっていたはダメ。ちなみに今は“宇治子育てを楽しむ会”“やましろ子育てネットワーク”という地域のグループと一緒に、子育て支援の大きなネットワークを作ろうと計画している最中です。いろんなグループが連携して大きな動きになれば、それが一番なんです(笑) 今や、すっかり近隣に住む女性たちの交流サロンと化している事務所ですが、来訪者の皆さんは口を揃えて「親子セットではなく、個人として大人として語りあえるのが、この会の魅力」ともいいます。

「私の場合、仕事を持っている時は“吉田秀子”だったけど、家庭に入った途端に〇〇ちゃんのお母さん、〇〇さんの奥さんってことになってしまったんです。今思うともう一度、吉田秀子に戻ってなにかを始めたいと思ったのが、NPOを立ち上げた動機だったのかもしれないね。同じように感じている人は多いんじゃないでしょうか」

思いを同じとする仲間が集まり、夢を一つひとつ実現していく、そんな喜びが、“働きたいおんたちのネットワーク”の活動の原動力となっているのは確かなようです。